

No. 181

<https://www.nitten.or.jp/>

令和4年7月7日発行

編集兼発行人 神戸峰男

第86回 定時総会



雨もよい 海野建夫



日展理事長退任に際して

奥田 小由女



改組新 第一回日展から第八回日展まで四期・八年間日展理事長を務めさせて頂き、此の度、退任致しました。日展改革期の試練の多いなか、日展五科の皆様が、一丸となって支えて下さり、日展を守ろうという力を与えていただき、事態を乗り切る事が出来ました事に、日展作家の皆様に心から感謝と御礼を申し上げる次第でございます。

日展理事長に就任して

宮田亮平



四期八年の大改革を成し得た奥田理事長のあと、この度、図らずも理事会におきまして、歴史ある日本文化芸術を牽引されてきました日展の理事長を仰せつかりました。大変緊張いたしております。身に余る大役ですが、微力ながら先輩諸氏の数々のご業績の上に築き上げられましたこの素晴らしい日展の益々の発展のため、全力を尽くしてまいりたく存じます。なにとぞ皆様の御支援御指導を賜りたく心からお願い申し上げます。

日展副理事長に就任して

土屋禮一



日展副理事長に就任して

佐藤哲



日展副理事長に就任して

黒田賢一



この度、副理事長を再度仰せつかりました。日展は奥田前理事長の強いリーダーシップにより、厳しい改革の時期を経て、大いなる信頼を取り戻すことができたと思っています。これからは宮田新理事長のもと、未来を見据え、さらなる発展をめざして、少しでもお役に立てるよう力を尽くす所存です。皆様のご理解とより一層のご支援をお願い申し上げます。

日展副理事長・事務局長に就任して

神戸峰男



この度、副理事長の再任に加え、新たに事務局長として、その責務の重要性を感じております。一世紀に渡る日展の歴史の中で、今程その組織の在りようが問われている時はありません。各々の作家が各自の自覚の下、美への確信と自信を持ち、創作に挑がれることを願つて止みません。日展作家の結集が、大きな力と成り得ることを信じております。今後とも、皆様のご支援をお願い申し上げます。

奥田理事長の下で八年にわたり事務局長と云う重責を、微力ながら皆様方のご協力のおかげで終えることが出来ました。心より感謝と共に御礼を申し上げます。つづいて副理事長の一人としての大任を仰せつけられ、改めて精進努力を自らに云いきかせております。これからも皆様の御支援をよろしくお願い申し上げます。

第86回 定時総会報告

日時 令和四年五月三十一日

役員・会員新人事

令和四年五月三十一日付

場所 上野精養軒 桜の間

新
顧
問

奥田理事長が議長となり、左記の事項について報告、説明し承認可決した。

(一) 令和三年度事業報告承認について
(二) 令和三年度決算承認について
(三) 令和四年度事業計画書報告について
(四) 令和四年度収支予算書等報告について
(五) 会員人事報告について
(六) 選定顧問報告について
(七) 理事・監事の改選承認について

その他報告事項

1 日展規則の一部変更報告について

2 令和四年度称号授与予定者

3 第八回日展巡回展開催報告について

なお、総会終了後、別室において開催された理事会において理事長・副理事長を選定した。

理事長	宮田亮平	副理事長	事務局長
副理事長	神戸峰男	事務局長	副理事長
副理事長	佐藤哲	土屋禮一	副理事長
副理事長	黒田賢一	黒田	副理事長
日本画	◆土屋禮一	◆土屋禮一	日本画
洋画	◆村居正之	◆村居正之	洋画
湯山	◆渡辺信喜	◆渡辺信喜	湯山
斎藤	◆秀夫	◆秀夫	斎藤
俊久	◆一紀	◆一紀	俊久
◆佐藤町田	◆佐藤町田	◆佐藤町田	◆佐藤町田
博文	哲	哲	博文

出された。
令和四年四月一日

書	石坂	澤田	吉澤	雅彦	薰	谷口	向井	弘子	一也
彫刻	清島	鈴木	浩徳	十二町	正剛	中口	鈴木紹陶	勇三	一也
工芸美術	南	向山伊保江	薰	谷口	向井	一也	紹陶武	弘子	一也
洋画	歳森	芳樹	虚遊	倉橋	奇艸	鈴木紹陶	勇三	弘子	一也
一の瀬	澤	澤	澤	寺坂	昌三	中口	紹陶武	弘子	一也
洋	吉	吉	吉	森上	光月	一也	紹陶武	弘子	一也

新会員 令和四年三月二十四日開催の理事会において、左記二十二名が選出された。

新準会員

令和四年三月二十四日開催の理事会において、左記一八名が選出された。

令和四年四月一日付

川合	玄鳳	長井	素軒
中村	史朗	藤川	翠香
山内	香鶴		

第五科 書（五名）

最上	細川	谷本	伊都子
山川	町野	西沢明比児	

繁昌	孝二	工芸美術	（二名）
	山口	和子	

第四科 彫刻（四名）

秋田	美鈴	近藤	哲夫
	信明	丹羽	俊揮

第三科 彫刻（四名）

池上	わかな	吉川	和典
重政	年男		

第二科 洋画（三名）

谷野	剛史	辻野	宗一
宮原	剛	行近壯之助	

第一科 日本書（四名）

日本画	（四名）		
谷野			

新会友

令和四年三月二十四日開催の理事会において、左記一一二名が選出された。

令和四年四月一日付

青野	圭花	小熊香奈子
大野	忠司	榎原孔美子

第一科 日本書（五名）

五十嵐	拓也	伊藤	隆
有働	孝昭	上品	博保

第二科 洋画（二十八名）

大山	富夫	沖津	達也
小田	昇	大野	一秀

第二科 洋画（二十八名）

菊池	徳恵	沖津	達也
馬場	良子	大森	まさ代

第二科 洋画（二十八名）

近藤	克子	久保	洋
田中	和男	仲原	憲男

第二科 洋画（二十八名）

吉田	知子	近藤	洋
山根	直未	吉田	洋

第二科 洋画（二十八名）

宮下	政木久美子	馬場	良子
和陽	吉田	近藤	洋

第二科 洋画（二十八名）

宮下	和陽	松島	良一
和隆	吉田	宮本	佳子

第二科 洋画（二十八名）

渡邊	長谷川よし美	宮本	長谷川よし美
正博	吉田	山本	容梓子

第二科 洋画（二十八名）

山本	容梓子	吉田	馨子
芳洋	吉田	山本	容梓子

第二科 洋画（二十八名）

吉田	直未	吉田	馨子
山本	芳洋	吉田	馨子

第二科 洋画（二十八名）

吉田	直未	吉田	馨子
山本	芳洋	吉田	馨子

第二科 洋画（二十八名）

吉田	直未	吉田	馨子
山本	芳洋	吉田	馨子

第二科 洋画（二十八名）

吉田	直未	吉田	馨子
山本	芳洋	吉田	馨子

第二科 洋画（二十八名）

吉田	直未	吉田	馨子
山本	芳洋	吉田	馨子

第二科 洋画（二十八名）

吉田	直未	吉田	馨子
山本	芳洋	吉田	馨子

第二科 洋画（二十八名）

吉田	直未	吉田	馨子
山本	芳洋	吉田	馨子

第二科 洋画（二十八名）

吉田	直未	吉田	馨子
山本	芳洋	吉田	馨子

第二科 洋画（二十八名）

吉田	直未	吉田	馨子
山本	芳洋	吉田	馨子

第二科 洋画（二十八名）

吉田	直未	吉田	馨子
山本	芳洋	吉田	馨子

第二科 洋画（二十八名）

吉田	直未	吉田	馨子
山本	芳洋	吉田	馨子

第二科 洋画（二十八名）

吉田	直未	吉田	馨子
山本	芳洋	吉田	馨子

第二科 洋画（二十八名）

吉田	直未	吉田	馨子
山本	芳洋	吉田	馨子

第二科 洋画（二十八名）

吉田	直未	吉田	馨子
山本	芳洋	吉田	馨子

第二科 洋画（二十八名）

吉田	直未	吉田	馨子
山本	芳洋	吉田	馨子

第二科 洋画（二十八名）

吉田	直未	吉田	馨子
山本	芳洋	吉田	馨子

第二科 洋画（二十八名）

吉田	直未	吉田	馨子
山本	芳洋	吉田	馨子

第二科 洋画（二十八名）

吉田	直未	吉田	馨子
山本	芳洋	吉田	馨子

第二科 洋画（二十八名）

吉田	直未	吉田	馨子
山本	芳洋	吉田	馨子

第二科 洋画（二十八名）

吉田	直未	吉田	馨子
山本	芳洋	吉田	馨子

第二科 洋画（二十八名）

吉田	直未	吉田	馨子
山本	芳洋	吉田	馨子

第二科 洋画（二十八名）

吉田	直未	吉田	馨子
山本	芳洋	吉田	馨子

第二科 洋画（二十八名）

||
||
||



《黄金比》 岡本明久

初入選から46年目、審査員を拝命致し緊張の中、諸先輩より受け継がれた責任ある立場を自負し、務めさせていただきました。新たな出発と自覚して、日本画の健全な発展を願いつつ日々の精進を重ねて参ります。

日本画 岡本明久

ご挨拶申し上げます

新会員より



《森羅》 佐藤和歌子

この度日展会員にご承認頂きました事、初心に返り身の引き締まる思いを強く感じております。

これまでと同様、弛みなく自然と対話し、作品に真摯に向き合う姿勢を崩さず、制作に取り組んで参ります。

日本画 佐藤和歌子



《去る時》 谷川将樹

今春から会員として歩ませていただける事に感謝申し上げます。2006年の初入選から出品を重ねて参りましたが、挑戦の心持ちに変わりありません。

立場は変わりましたが、今までどおりの姿勢で画業に勤しみ、自己の表現を深掘りしていきたいと思います。

日本画 谷川将樹

この度日展会員へ推举頂き感謝しております。ただ、一歩一歩歩んでまいりました。これからも、自分の中にある想いに対して、努力してまいりたいと思います。

日本画 寺島節朗



《水域》 林 秀樹

会員となっても変わらないことは、対象と画面とに対峙し、自分の絵画を追求すること。会員となって変わらなければならぬことは、その自分に対し様々な面でより厳しくならなくてはいけないことだと思っています。

日本画 林 秀樹



《願う》 寺島節朗

作品図版
第8回日展出品作
2021（令和3年）



《Ballad of Mononofu》
清島浩徳

この度、長い歴史ある日展の会員を拝命いたしましたことを、諸先生方々、関係の皆様に心より感謝申し上げます。日展会員の名に恥じぬよう今後とも常に新しい試みに挑戦しながら精進してまいりたいと思います。

彫刻 清島浩徳



《御嶽の麓》 一の瀬 洋

日本の歴史が生み出した美しさや、その思いを基本とし、大自然から学んで、自己啓発を致し制作研究に打ち込んで参ります。

洋画 一の瀬 洋



《コアラのひるね》
鈴木紹陶武

幼い頃より憧れていた日展。会員にご推挙頂き作家としての節目を迎えたことに歓びと共に責任を感じております。彫刻を通して何を表現したいのか、何が表現できるのか、より一層研鑽を積んでまいります。

彫刻 鈴木紹陶武



《夢想》 鈴木徹男

この度は、日展会員の委嘱を賜り有難く感謝申し上げます。会員としての自覚と品格を保ち、その一員としてお役に立てますよう尽力する所存です。

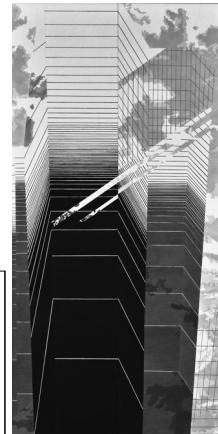
彫刻 鈴木徹男



《思流》 中口一也

この度は、日展会員に承認して頂き身の引きしまる思いです。初入選から41年が過ぎましたが、初心に帰り作品制作に取り組んでいきたいと思います。

彫刻 中口一也



《雲外蒼天》
十二町 薫

この度、会員となり大きな喜びと共に責任の重大さを痛感しております。鑑査結果通知が届くたび、気に病んでいた事が昨日の事のように思い出されます。今後も作品に想いを込め真摯に向き合って参りたいと思っております。

工芸美術 十二町 薫

栄誉ある日展会員にご承認いただきまして感謝を申し上げます。
美術を志し40年余が過ぎましたが、初心を忘れず、制作に慈しみをもって精進して参りたいと存じます。

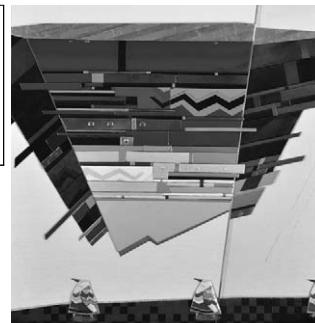
工芸美術 向山伊保江



《臨界譜》 谷口勇三

凡才という才能が、私に創作を、ここまで続けさせてくれました。(凡才に感謝) 感謝のしるしを、この節目に、新たな創作への意気込みに換え、ブレない歩みを続けて行く気概であります。(さあ、これからが本番)

工芸美術 谷口勇三



《浮・此の先にあるもの》
向山伊保江

この十数年、海外取材にテーマを求めて、異なる自然、風土、歴史、文化からエネルギーを得てきました。同様に長いスパンで『日展』を捉え、先達の先生方の仕事を自らの範とし、一日一日、制作に励んでいきたいと思います。

工芸美術 向井弘子



《アナトリアの風》 向井弘子

今ある自分を育て、導いてくれた「日展」そして「恩師」に、心よりの感謝の念を抱き、これからも創作活動に精進してまいります。

また、創作の苦しみや不安を乗り越えた時に得られる「達成感や喜び」を次代を担う人々と共有、協力して明日の日展のためになれたら幸いと考えております。

工芸美術 南 正剛



《氷裂2021》 南 正剛

この度会員を拝命し、光栄に思っております。会員の第一の責務は作品制作。伝統に則りながらも現代性溢れる生き生きとした魅力ある書を目指し、日展のお役に立ちたいと思っております。

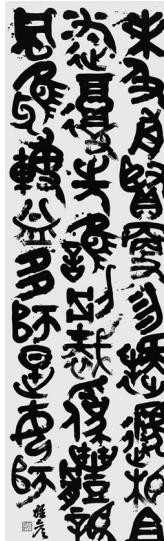
書 石坂雅彦



《春の月》 森上光月

この度、伝統ある日展の会員に加えて頂く事となり、大変光栄に思うとともに、重圧を感じています。これまでご指導頂いた恩師、支えてもらった家族や仲間に感謝しつつ、更なる精進をしていく所存でございます。

書 森上光月



《杜甫詩》 石坂雅彦



《眞機》 澤田虛遊

まず写実的な臨書を書く。特に骨格重視で、次に自分らしさも加味した臨書を試みる。臨書の方法を種々工夫することで、作品がどう変化してゆくかを試したい。それには日々の研鑽が不可欠と思っています。

書 澤田虛遊



《山行雜咏》
古澤石琥

責任ある立場として身の引き締まる思いです。諸先生方が作り上げて來た日展の伝統を損なわぬように挑戦する気持ちを忘れず、一歩一歩前進し、一会员として自己を高めてまいりたいと思います。

書 吉澤石琥

25歳の時から、一年の総決算として出品を続けてきた日展。その日展においてこの度、会員という重責を拝命し、肅然たる思いです。果てのないこの道ですが、一層の精進を重ねて行こうと思いも新たにしております。

書 倉橋奇艸



《貧窮問答歌 一》 倉橋奇艸

師匠や先輩方が導き示して下さり今日があることに深く感謝しております。日展を通じて、書の文化の継承と発展に少しでも貢献するべく精進を重ねてまいります。

書 歳森芳樹



《王文治詩》 歳森芳樹



《雪・梅・桜》 寺坂昌三

この度は日展会員という榮誉を賜り感謝申し上げます。大学で書道コースの教員をしていますので、若い世代の育成に努めたいと思います。書作家としては、淡々と古筆を基盤とした学びを深めていきたいと考えています。

書 寺坂昌三

♪夏休み一日ART体験♪

参加費（※教材費等）
1名 二、五〇〇円

第18回『Oneday Art』

指導作家・内容

応募方法
※詳細はHPでご覧になります

作家を、「展覧会」を体験できる
「Oneday Art」。18年

目の今年も挑戦は続きます。

日展作家が丁寧に指導します。
(保護者の皆様へ)

「作品をつくる」体験をし、作品や作家とのかかわりを通して、多様な世界観を学んでほしい。
日展の芸術文化普及活動です。

参加者募集!

定員 各回 40名程度
※見学の大人は人数に含まない
※締め切り7月15日(必着)

開催日程
7月23日(土)工芸美術(陶)
7月24日(日)彫刻
7月26日(火)洋画
7月31日(日)日本画
8月6日(土)書

主催
公益社団法人 日展



(昨年の様子)

●個人		●法人・団体	
青木晃子 様	東晋一郎 様	株式会社 IDホールディングス 様	医療法人社団 永寿会 様
新井演子 様	飯田真未 様	株式会社 大垣共立銀行 様	株式会社 玉蘭堂 様
石崎國夫 様	井谷善恵 様	株式会社 靖雅堂夏目美術店 様	謙慎書道会 様
井上道守 様	今田功一 様	株式会社 公益社団法人 創玄書道会 様	T&Tパートナーズ法律事務所 様
今村忠司 様	岩田 薫 様	株式会社 公益社団法人 日本書芸院 様	東洋額装 株式会社 様
奥田節子 様	角井 博 様	株式会社 一般財団法人 ビオトピア財団 様	株式会社 筑波銀行 様
梶山純子 様	金子美和 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様	株式会社 佐藤大悟 様
兼重勇希 様	岸野 田 様	株式会社 一般財団法人 桃園学園 様	株式会社 島谷弘幸 様
栗原直子 様	吳 祐輔 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様	株式会社 高山草月堂 様
黒田浩平 様	児玉安司 様	株式会社 一般財団法人 桃園学園 様	株式会社 寺岡宏高 様
近藤禎男 様	坂本美賀子 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様	株式会社 一般財団法人 桃園学園 様
佐川かおる 様	佐藤大悟 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様
澤田優也 様	島谷弘幸 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様
鈴木千壽 様	高木寛史 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様
田頭明子 様	竹尾明子 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様
高橋千笑 様	田頭益美 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様
竹本葉子 様	土橋正彦 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様
土屋礼央 様	寺岡宏高 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様
中谷幸司 様	中原有三 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様
西田俊通 様	西村潤帰 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様
西村友子 様	野田裕一 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様
藤田理恵子 様	藤本真之 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様
宮原和朗 様	宮島幸男 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様
森嶌順子 様	村里 晓 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様
堀 稲子 様	藤本真之 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様
宮原和朗 様	宮島幸男 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様
株式会社 和光 様	菱三印刷 株式会社 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様
株式会社 リンクス 様	株式会社 湯山春峰堂 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様	株式会社 一般財団法人 丸栄堂 様

賛助会員制度 《日展パートナーズ》

(掲載希望者のみ 令和4年6月6日現在)

学びと制作

(書) 森上洋光

徳島県で漢字書道の作品制作に傾

注しています。



私と日展

(洋画) 半田豊和

私は富山県に在住し、仕事をしながら日展に出品しています。

毎年絵の構想から始めて、半年の時間をかけ、一筆一筆を積み上げてタブローを完成させるのは、さながら建築のような楽しみと難しさがあります。そして搬入後はまるで合格を待つ受験生のような気持ちとなるのです。かくして一〇〇号の画面を制作し、出品して評価を受け、展示される（展示されないこともあります）という一連

の事は私にとって自己実現の手段となります。

深夜に、一人自分の作品の前にたたずんで描きかけの自作と対話していると、ダヴィンチやレンブラントのような古の巨匠が優しく微笑みかけてくれるような気持ちになることがあります。ラスコーや洞窟画を制作した古代の人々にまでつながる人間の「絵を愛する心」と連なる幸福な時間です。



各地からの

雄大な吉野川の流れと水面を渡る風、生物の営みに季節の移ろいを感じながら、心身のバランスにも配慮しています。刻々と変化する社会の中で、学びと制作の循環から整理と調和を図り、いかに説得力ある表現につなげられるか。高い目標を掲げ、今の自分にできる「無垢なる表出」を重視することで、普遍性も加えたいと願っています。

このような思いが集まる日展に出品できることは喜びであり、作品から制作のバックボーンをうかがう貴重な機会でもあります。私にとって、学びと制作に生きる毎日を後押しする励みとなっています。

(徳島県在住)

地元の人々とともに遠く離れた友人たちとともに

(彫刻) 灰塚みゆき

刺激の少ない地方都市から日展に出品し続けるのは、時に困難なことがあります。自分の描く作品からエネルギーをもらって、作品を作り続け

ることができます。

(富山県在住)

私の住む福岡県小郡市は、田んぼと畑に囲まれたのどかなところです。実家の車庫で制作をしています。道路に面しているので、シャッターを開けて制作していると、近所の方が話しかけてくださることがあります。

穏やかな表情で、いつも植物を山のように抱えて散歩をしているお姉さんは、染織の勉強中だそうです。毎回全身真っ赤な服でコーディネイトしているおじさんは、仏師だったおじいさんの話をしてくれます。自ら脚立に登って柿の木を剪定するパワフルな七十歳を過ぎたおばあさんは日本画家です。

山陰の自然と少年たちを描いて

(日本画) 岸 本 章

昭和五十七年、十年振りに東京から帰った私に、山陰の美しい自然と暮らしが新鮮な感動を与えてくれました。

四季折々に、さまざまな表情を見せてくれる大山。出雲に伝わる国引き神話の舞台となつた雄大な隱岐の風景。生活の匂いあふれた網代港。急な斜面に建つ夏泊などの漁村。ユーモラスな顔のオコゼなどの魚。そして生き生きとした子供たち。夢中になつて描き続けて、年月が経ちました。

その中で、「因幡の白兎」に出てくる鮫の漁が、島根の港で始まつたと聞き、取材に行きました。岸壁では水揚げの最中で、フカヒレを採取する作業を、家族で協力して行つていきました。その傍で幼い子供達が、無邪気に遊んでいた光景が印象的でした。その後、船に乗せて貰い、納得するまで写生をさせて頂きました。そして「鮫と少年」をテーマに、連作シリーズとして、日展に出品することが出来ました。

日本海に面し、歴史と文化に恵まれた鳥取・島根の人々に感謝しながら制作を続けたいと思います。

(鳥取県在住)

出品者の思い

風土を生かし、自分の思いを作品に！

(工芸美術) 尾 澤 勇

東京都出身で大学院在学時の第二十一回日展に初入選して以来、鍛金の制作出品を続けてきました。卒業後、美術・工芸の教員として、東京から広島、東京そして秋田に赴任し工芸文化の啓発と美術・工芸の教員養成、人材育成を行つています。日本各地に赴任した経験から、各地の方々が地元の伝統文化の価値に、当たり前すぎて気づいていないのかなと思うことがあります。

日本の工芸文化は、その地域の自然や風土に根ざした素材や技法、題材などに特徴があります。私もそれを生かしたいと思い、モチーフなど、秋田の自然や風土から触発された作品を制作しています。冬の厳しさを乗り越え、花々や草木、山々、風、雲など春の喜びは東北ならではです。四季折々コントラストの強さを感じます。

作品は自分自身で抱えて搬入しています。搬入間近に台風や災害の影響で交通機関の運休を何度も経験するなど、苦労することもあります。これからも風土を生かし制作していきたいと思います。(秋田県在住)

いろいろな出会いから縁がつながり、一昨年、地元の文化財の建物で個展を開催させていただきました。

十数年前に大学を出て地元に戻った時、制作活動の悩みや喜びを日夜語り合える友達がいなくなりました。しかし今は、生まれ育った場所で、周囲の方々と関わりをもちながら日々制作に励み、遠方の友人と共に日展に挑戦できる生活を嬉しく思っています。

(福岡県在住)



作家人生——私の仕事——



《な・え・ば》(部分) 1982年
上越新幹線 越後湯沢駅



《風道》
(平成20年 第40回日展出品作)



《キュービック 宙・華》
(平成30年 改組 新 第5回日展出品作)



《大地の軸》 2008年 大阪市内

原点

第四科工芸美術 理事 春山文典

造形素材として金属との出会いは東京藝術大学工芸科入学後であった。インテリア空間デザイナーや舞台美術家を目指し工芸科を選んだ。当時の同科は三年次よりヴィジュアルデザイン、インダストリアルデザイン、そして鋳金、鍛金、彫金、陶芸、染色、漆芸等各専攻のうちから選択し、進級するシステムであった。自身の志望は前述の通りであり迷いはあったが、まず素材を知りその特性を生かした造形が肝心と考え鋳金専攻へと進級した。この選択や、その後の幾つかの作品制作の機会やきっかけで進む道が変わり、今日まで歩んできたようと思われる。

鋳金専攻では伝統的な工芸の考え方や、また今に繋がる加工法による作品制作に理解を示される指導教官がいらした。自身は強く後者の教えに共感し、蓮田修吾郎先生の教室に進級した。先生は二十世紀初頭ワيمアール(ドイツ)で起こったバウハウスの思想、美術と建築の統合的な新しい造形教育に共感なさいた。伝統的な工芸技術を学ぶか、あるいは金属による美術と建築の統合的な考えを持つた造形を学ぶかの選択でもある。技術が造形発想を喚起し、発想が技術を生み出すのであらうが自身の考えはこの統合的な造形を強く意識するようになり工芸の原点を見い出す感があった。

金属の造形の魅力に取り込まれていった大学院修了の頃には恩師から強く日展や現代工芸展への出品を勧められたが、当初はなかなか公募展出品に決心がつかなかつた。しかしそこは真に研究の場であり、先輩、後輩そして仲間の意見や講評の大切さに気付かされていった。併せて恩師が主宰するドイツ人作家との交流の場である金属造型展に約三〇年間に渡り関わりを持たせていただき多くのことを学んだ。その影響か展覧会出品だけではなく、実際空間へのモニュメンタルな作品制作の機会も得て來た。自身の歩みを見た時、それぞれの表現の場は次の制作へとファイードバックされて來たのではないかと思う。このような制作動機の反復運動によつて更に表現の深化、そして転換、發展出来たらと思っている。

継続は力なり

第五科書 理事 星 弘道

僧侶になつてから書を始めただけに、出遅れ状態だつた。常に一枚でも多く練習しようと思い書き続けたことがよかつたのでしょうか。

丁寧に積み重ねて仕上げていく芸術と違い、書は瞬発力と持続性が要求されるものと思っている。仮名とか書体によつても、多少の違いがあり、その表現の大小はあると思うが、筆と紙の接筆感に心象の世界が加わることは同じである。一瞬一瞬の結果がすぐあらわれてくるのである。故に、満足いくものがなかなかできず苦しむことになる。

しかし反面、技と心象が合致したときに、自分で持つている物以上の結果を生み出すこともある。そこに、作家としての喜びを感じることになり、どんどん深みにはまつていくこととなる。特に、中国の漢字のもつ造形感が多種彩々で一生かかっても、名筆といわれる書にふれ、顕すことは不可能と思うが、自分の相性とあうものを求め現存する資料を注視して手の中におさめていく繰り返しが大切だと思う。過去の名筆といわれる人たちも皆、このような方法で絞り込んでいったことと思う。この方法でも、決して簡単なことではなく、自分をだすことはそんなに甘いものではない。だれだれの書のにおいぐらいのことろで、精一杯なのかもしれない。

書の難しさは、計り知れないものがあるが、しかし、己は一人しかいないので、そこに個性は出せるのではないかと思つてゐる。今、年を重ね自分のこれから仕事をはどうするかと真剣に考えている。なかなか結論は出し得ないがもう一度原点の法帖をしつかり再確認をしながら進むことが一番大切なのかと考へてゐる。追いかけても追いつくことがないかも知れないが、これが生涯をかけての仕事のようです。



《麟鳳遊》（平成28年 改組新第3回日展出品作）



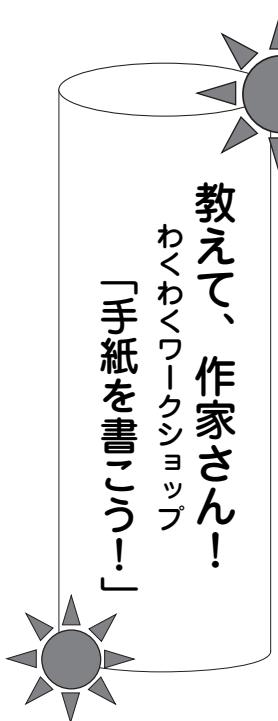
《菜根譚の語》（令和2年 改組新第7回日展出品作）



《妙法蓮華經・如來神力品第二十一》（平成2年 第22回日展出品作）特選
（令和4年 第66回現代書道二十人展出品作）



《蘇東坡詩》（平成2年 第22回日展出品作）特選



昨年「第8回日展」開催時に、「わくわくワークショップ『手紙を書こう!』」という、小・中・高校生から気に入った作品の感想や質問を集め企画を実施しました。手紙は465通にも及びました。そのため、皆様から好評をいただきておりますこの企画も、前号に続きお届けします。

色使いが鮮やかで絵がはっきりとしている所がとても好きです。引き込まれるような感覚になりました。
私も絵の勉強をしているので、とても参考になりました。ありがとうございました。
侑里奈さん12歳

この作品は群馬と長野の県境あたりを取材したものです。ブナ林のスケッチをするため、小径を歩いていると、眼下に美しい川がありました。足元に注意し、下へ降りてみると、そこにはまるで何か全く違った生き物のような形をした倒木が川縁に横たわり、様々な動植物の棲家として存在していました。その情景はとても美しく、作品にしないではいられない気持ちになりました。絵の勉強をされているのですね。最初に受けた感動を絵で表現できるよう、気持ちを込めて描いて下さい。技術は長く描き続けていれば確実に身に付くので、それよりもむしろ喜怒哀楽などの感情を表現できるようになることが大切です。これからも絵を好きでいてくださいね。

長谷川喜久



流・白く

他の人とはちがうような、すみのにじみ出る様子が他の人とはちがうと思い、この作品を選びました。大たんにかけているのとすみのかすみをうまく使い、大たんにかけているところがぼくは、気にいりました。すみのにじみに守られているように見えました。また表具紙のあいしょうがとてもよく、げんかんにあると帰って来たときにおちつける作品だと思います。さらに、この作品を作るのに、たくさんの紙を使い苦ろうしたのだと思います。
このむずかしい漢字は、どういう意味ですか。また、なんと読むのですか。なぜこの字(作品)にしようと思ったのですか。
宏太さん10歳

こんにちは。「だいたんに書けている。おちつける作品だ。」と作品の意図を感じ取ってくれて、うれしく思います。作品名は「靈華」(靈華)、「れいか」と読みます。意味は「ふしぎな花」です。大切な人にすばらしい花をプレゼントしたい。キリリと立ち、静かでおちついた感じで仕上げるために、薄墨で美しくにじみが出るように書きました。皆さんのが使っている黒い墨は「油煙墨」といって、油をもやしてできた煤で、墨を作ります。この作品は、「松煙墨」といって、松の木や松の根っこをもやしてできた煤で墨を作っています。紙と墨の関係によりますが、上手に使うと、この作品のように美しくにじみます。興味があったら、墨の研究をしてみませんか。

大森 哲



靈華

ピンクをイメージしたような色がとてもきれいでし
た。そして遠くからみていたときは気づきませんで
したが、近くによるとたくさんの点が一つの作品に
なっていることに気が付き、びっくりしました。
経験が積み重なっているのだろうなと思いました。
どの作品もすてきでした。また来年もすてきな作品
を楽しみにしています。

智夏さん11歳



海潮音

私は20代の時夜明けの漁港を描いていて、水平線に朝日の光がキラキラ光っていて、点々で表現し良かつたのがきっかけで点描画を描くようになりました。観に来ていただきありがとうございます。また観に来てね。

鈴木順一

オレンジ、赤、青色のまぜ方で、本当に夕日の感じがします。そして、ふつうに毎日見る物に注目すると、ステキだと思います。しかも、太陽の書き方がきれいですね。同じような絵を書き続けて、色々な賞状をもらってください。

安敦さん9歳

私の作品は染色で布地に染めています。そのため、紙に描くよりきれいなグラデーションを作る事が出来ます。また、太陽(月)は箔という金属を薄く伸ばしたシートをはってあります。技法に目を止めてもらい、とても感心しています。カラスは、学校や仕事を終わって、これから家に帰って、おいしいご飯を食べる、私達の小さい幸せを表現しています。毎日元気で幸せでありますように。また日展を見に来てくださいね。

山本恭子



帰途

大きな口を開けていまにも鳴きそうにわとりの姿に心をうばわれました。
ちょうどくを作れる人はこの世の天才です。

昊希さん10歳



列島の中で

「大きな口を開け、いまにも鳴きそうなニワトリの姿に心をうばされました」という感想、とてもうれしく思いました。みて下さってありがとうございます。ニワトリから言葉がきこえてきましたか?どのような事、ニワトリが言っていたかな?人間(ヒト)のお家も、ニワトリのケージ(トリ小屋)の中でも?この2年間コロナ禍で自由に行動出来ずザワザワしたり、イライラすることが多くなってきたのではないでしょうか?1日も早く、楽しくお喋りを気にせず出来たり、お出かけしたりとコロナを気にせずすごすことがしたい…。お家の中ばかりだと飽きちゃいますよね。ニワトリは私自身かもしれません。これからも、ニワトリの形で表現を続けます。是非、観てくださいね。コロナに負けず明るく楽しく一日一日を大切にすごして下さい。それではまた、来年日展でありますよ。

田中厚好

第8回日展巡回展

開催順	開催地	会期	会場	開催者	入場者数(人)
	東京	2021年10月29日～11月21日	国立新美術館	公益社団法人 日展	69,201
1	京都	12月18日～2022年1月15日	京都市京セラ美術館	日展京都展実行委員会	20,790
2	名古屋	2022年1月26日～2月13日	愛知県美術館ギャラリー	中部日展会	19,501
3	大阪	2月26日～3月21日	大阪市立美術館	日展大阪展実行委員会	29,498
4	安曇野	4月23日～5月15日	安曇野市豊科近代美術館	安曇野市豊科近代美術館 公益財團法人 安曇野文化財団	13,349
5	金沢	5月28日～6月19日	石川県立美術館	北國新聞社	14,856

「二〇二二年度高崎市タワー美術館
企画展 日展の日本画」開催
日展会館所蔵作品より日本画約60点を展示

会期 令和4年9月17日(土)～11月13日(日)

主催・会場 高崎市タワー美術館

群馬県高崎市栄町三一三

電話 027(330)3773

協力 公益社団法人日展

※観覧料等詳細については主催・会場にお問合せください。

日展出版物・バックナンバー

割引販売のご案内

日展図録(5部門・5分冊)

割引価格 各一、〇〇〇円(税込)

割引価格 各一、〇〇〇円(税込)

日展作品集

割引価格 一、〇〇〇円(税込)

※送料 一冊五〇〇円

※バッケンナンバーにつきましては、在庫が僅少の回もございますので、お問い合わせください。

会員・準会員・会友・出品者の皆様

(問い合わせ先)
〒110-0002 東京都台東区上野桜木2-14-1
公益社団法人日展事務局 出版物係
TEL 03(3821)9543 FAX 03(3823)0453

表紙
「雨もよい」

一九六九年(昭和四十四年)
改組第一回日展

140×120cm

海野 建夫

(一九〇五～一九八二)

日展史第三十二卷掲載

日本芸術院蔵

文化庁許可済

編集後記

世界情勢不安ではありますが、コロナ禍の閉塞感は幾分明るい方向へ向かっています。現代に生きる芸術はまさに世相とともにあり、各地で展覧会が開催されるようになります。

今号には理事長・副理事長の就任・退任のご挨拶、五月末の総会報告、そして「作家人生—私の仕事」として芸術界を牽引してこられたお二人の先生の貴重なお話を紹介しております。

苦しい状況下におきましても、

日展は日本における芸術活動の発表の場として展覧会の開催を続けています。

毎年新たな作品を制作し続けるため、自らを叱咤激励しているわけですが、お互いに個々の信念を尊重し、秋の展覧会にむけて更なる意欲をかきたてて参りたいものです。

(福光)

会員・準会員・会友・出品者の皆様

編集委員	川田 恭子	水野 清水 堤 優
西村 月岡	前原 直美	喜好 野原 裕二
東軒 福光	昌代 友定	喜好 昌代
幽石 聖雄	喜好 嘉代	喜好 嘉代

お引越しなどで、住所・電話番号等が変わられた際には、日展事務局までお知らせください。